



ロータリー・アン

第 273 地区ガバナー

(大分・宮崎・熊本・鹿児島) 杉村 進 (大分)

国際ロータリー定款第 4 条第 3 節(a)に「ロータリー・クラブは以下本項に定める資格条件を備える男子によって構成されるものとし、いかなるクラブもその正会員の資格条件が次に示す所に該当していなければ、国際ロータリーの会員たる資格は認められない：善良な成人男子であって、職業上良い世評を受けている者、そして……」となっています。

これに対して女性をなぜ会員として認めないかという根強い意見が一部にあります。ここではそのことには触れないことにいたします。

元 RI 副会長パウロ・ピリアート・コスタ夫人リタ・コレア・ダ・コスタさんは“婦人の入会には不賛成ですが”という一文をロータリアン誌にのせておられます。そのなかに「私は大のロータリー崇拜者ですが、婦人の協力と支持がなかったらロータリーはいったいどうなるかと思えます。(中略)南米諸国では地区大会で、婦人が婦人のために用意したパネル討論なども行なわれ、婦人にロータリーのことについて理解を深めてもらい、ひいてはロータリーへの協力を強めてもらうのに役立っています。女性がロータリーのことをよく知り賛成すると、ロータリーは強力な同盟軍を得たこととなります。そして女性特有のやさしい心と誠実さをもって協力します。女性自身もそのことに幸せを見出し出しているのです」とあります。

私は1982—83年度の初めから公式訪問で各クラブを回る際に、家内を同伴する試みを実行することにいたしました。7月8日、熊本RCを皮切りに第273地区内87RCの大部分を済ませましたが、そのほとんどがこの試みに賛成していただけたようです。

家内の役割は、各クラブ会員のご夫人がたとの交流でありましたが、そこでいろんなご意見をきくことができました。

各クラブにおける家族のあり方はまちまちでいわゆる“インナー・ホイール”に相当するものはありませんが、“ロータリー・アン”のような私たちのものが任意に、あるいは定期的に会合が行なわれているところもあります。

このような試みに積極的に反対する方があったとしても、そのような声は私の耳には入りにくいものです。お便りを下さる方も多く、そのたよりは賛成または大賛成です。

Rotary Ann は今までに幅広く奉仕してきましたが、その第一は内助の功です。そのほかに青少年交換学生の「里親」となるなど各種の奉仕が行なわれています。

私としては、それによって家族を拘束し自由を奪ってしまうなどとは思っていません。あくまでもロータリアンの心を体したボランティア精神に期待するものです。

(医学研究)